

## エダマメ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	べと病	茎疫病	紫斑病	菌核病	苗木立枯病	灰色かび病	炭疽病	葉焼病	赤かび病	さび病	うどんこ病	莢汚損症	斑点細菌病
Zボルドー粉DL	M1		-	-		◎											
撒粉ボルドー粉DL	M1		-	-	◎	◎	◎					◎					
トップジンM水	1		7	3				◎									
ベンレート水	1		30	3			◎	◎									
アフエットFL	7		1	3				◎		◎				◎	◎		
アミスター20FL	11		1	3	◎												
ファンタジスタ顆水	11		1	3			◎	◎		◎							
ライメイFL	21		3	3	◎	◎											
ランマンFL	21		3	3	◎	◎											
セイビアーFL20	12		1	3									◎				
ロブラール水	2		30	3				◎		◎							
レーパスFL	40		7	3	◎	◎											
バリダシン液5	U18		7	3								◎					
ゲッター水	1・10		7	3			◎									◎	
ニマイパー水	1・10		30	3			◎	◎		◎	◎						
フェスティバルC水	40・M1		1	3	◎	◎						◎					◎

\*a:播種前

# エダマメ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア	コ	カ	ア	タ	ダ	ハ	マ	ツ	マ	ア	ウ	ウ	オ	ヨ	ネ	コ	フ	マ	ハ	ダ			
						ブ	ナ	ザ	ダ	ハ	マ	ツ	マ	ア	ウ	ウ	オ	ヨ	ネ	コ	フ	マ	ハ	ダ	イ				
						ラ	ジ	ミ	ウ	バ	エ	エ	シ	ク	サ	メ	イ	メ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ			
バイデートL粒	1A	劇	*e	1																						◎			
オルトラン水	1B		21	3		◎																							
オルトラン粒	1B		21	3																									
カルホス粉	1B		*a	1						◎																			
			*c	1																									
			*d	1																									
カルホス微粒F	1B	劇	*a	1					◎																				
			*c	1																									
スミチオン乳	1B		21	4		◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎												
ダイアジノン粒5	1B		30	5						◎																			
			30	4				◎			◎	◎																	
ダイアジノン粒10	1B	劇	*a	1						◎																			
			30	5																									
ネキリエースK粒	1B		21	2																									
ネマキック粒	1B		*e	1																							◎		
ラグビーMC粒	1B		*e	1																							◎		
キラップFL	2B		7	2					◎																				
アグロスリン乳	3A	劇	7	3				◎					◎													◎			
アディオソ乳	3A		1	3		◎		◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				◎	◎				
トレボン乳	3A		14	2			◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎							◎					
トレボンMC	3A		14	2			◎					◎																	
ペイオフME液	3A	劇	7	3		◎							◎																
アクトラ顆溶	4A		7	2		◎	◎																						
アドマイヤー1粒	4A		*a	1	△	◎																							
			*f	1		◎																							
アルバリン顆溶	4A		7	2		◎	◎				◎	◎														◎			
アルバリン顆溶	4A		7	2		◎	◎				◎	◎																	
アルバリン顆溶	4A		*a	1																						◎			
ダントツ溶	4A		1	3		◎	◎						◎													◎			
ダントツ粒	4A		*a	1		◎																							
モスピラン顆溶	4A	劇	7	3		◎	◎	◎	◎				◎													◎			
モスピラン粒	4A		*f	1		◎																							
エクシードFL	4C		1	2				◎																					

エ  
ダ  
マ  
メ

# エダマメ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

薬剤名	作用機構分類コード	人用毒性	使用時期(日数)	使用回数	使用条件	ア	コ	カ	タ	ダ	ハ	マ	ツ	マ	ア	ウ	シ	ウ	オ	ヨ	ネ	コ	フ	マ	ハ	ダ
						ブ	ナ	ザ	ダイ	モ	メ	メ	ズ	シ	ロ	ラ	オ	ト	キ	ガ	タ	メ	ハ	ダ	シ	ス
アニキ乳	6		1	3																						
アフーム乳	6		3	2																						
ニッソラン水	10A		21	2																					◎	
アタブロン乳	15		14	2														◎								
カスケード乳	15		1	2			◎								◎											
ノーモルト乳	15		14	2																						
マッチ乳	15		7	2																						
マトリックFL	18		1	3																						
サンマイトFL	21A	劇	14	1			◎																			
トルネードエースDF	22A		7	2																						
アクセルFL	22B		1	3																					◎	
アクセルバイト	22B		1	3																					◎	
フェニックス顆水	28		1	3									◎													
フェニックスFL	28		1	3									◎		◎										◎	
プレバソンFL5	28		3	3									◎		◎				◎							
ベネビアOD	28		1	3			◎						◎													
ヨーバルFL	28		1	3									◎		◎										◎	
ウララDF	29		7	2			◎																			
グレーシア乳	30		1	2					◎		◎	◎			◎				◎						◎	
プロフレアSC	30		1	3						◎		◎	◎		◎				◎						◎	

△:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの培土に均一に混和する。  
 \*a:播種時 \*b:播種前 \*c:定植時 \*d:播種時~本葉2葉期 \*e:播種又は定植前  
 \*f:播種時又は定植時  
 ハ:ハスモンヨトウ

エ  
ダ  
マ  
メ

## エダマメ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

主要病害虫発消生長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 普通												
害 虫												
害 虫												
害 虫												
害 虫												

作 型 — ; 栽培期 — ; 収穫期  
 病害虫発消生長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連作を避ける。</li> <li>1. 敷きわらを行う。</li> <li>2. 密植を避け、通風をよくする。</li> <li>3. 施肥に注意し窒素過多にならないように注意する。</li> <li>4. 発生を認めたら次の薬剤を散布する。 ランマンフロアブル 1000~2000倍</li> </ul>	本葉発生後まもなく発生するが、特に6月以降に降雨が続く年に多い。 ダイズのほかツルマメに発生する。
	生育期		
菌核病・灰色かび病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 施設では過湿に注意する。</li> <li>2. 発病株は除去する。</li> <li>3. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフエットフロアブル 2000倍 ロブラール水和剤 1000倍</li> </ul>	
紫斑病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健全種子を使用する。</li> <li>・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ゲッター水和剤 1500倍</li> </ul>	開花結実期に高温多湿条件になると多発する。
	生育期		
黒根腐病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連作を避ける。また、排水を良好にする。</li> </ul>	
モザイク病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健全種子を使用する。</li> <li>1. アブラムシ類を防除する(アブラムシ類の項参照)。</li> <li>2. 発病株は除去する。</li> </ul>	種子およびアブラムシによって伝染する。
	生育期		
アブラムシ類	播種時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の薬剤を播溝土壌混和する。 モスピラン粒剤 3kg/10a</li> <li>・次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000~4000倍 スミチオン乳剤 1000~2000倍</li> </ul>	5~6月に発生が多い。
	生育期		

## エダマメ

(野菜類、豆類(未成熟)の登録農薬も使用できる。豆類(種実)の登録農薬は使用不可)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
コナジラミ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 サンマイトフロアブル 1000倍 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	
カメムシ類	稚莢期 ～莢肥大期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 2000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2000倍 スタークル顆粒水溶剤 2000倍 スミチオン乳剤 1000倍	
タネバエ	播種時	・次の薬剤を条施し、土壌混和する。 カルホス粉剤 4～6kg/10 a	有機質肥料、未熟堆肥などを多用すると発生が多い。
マメシクイガ	稚莢期 ～莢肥大期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スミチオン乳剤 1000～1500倍 プレバゾンフロアブル5 4000倍	
シロイチモジマダラメイガ	稚莢期 ～莢肥大期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 スミチオン乳剤 1000倍	
ハスモンヨトウ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターBT* 1000倍 カスケード乳剤 4000倍 トルネードエースDF 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000倍	*野菜類での登録
ハダニ類	生育期	・発生初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 ダニトロンフロアブル* 1000～2000倍 マラソン乳剤* 2000～3000倍	*豆類(未成熟)での登録
ダイズシストセンチュウ	播種または定植前	1. 連作を避ける。 2. 対抗植物を栽培する。 3. 抵抗性品種を導入する。 4. 播種前に土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 5. 次の薬剤のいずれかを全面土壌混和する。 バイデートL粒剤 30kg/10 a ラグビーMC粒剤 20kg/10 a	
その他の病害虫		ケラ、マメハンミョウ	